

# グラフとネットワーク(第10回)

<http://coconut.sys.eng.shizuoka.ac.jp/gn/10/>

安藤和敏(静岡大学工学部)

2010.12.13

## 2.1. 木と道

### 2.1.1. 最短路問題(ダイクストラ法)

有向グラフ  $G = (V, A)$  上の各枝  $a \in A$  に対して、その長さ  $l(a)$  を指定する枝長関数  $l: A \rightarrow \mathbb{R}$  が与えられているとする。このようなネットワークを  $\mathcal{N} = (G = (V, A), l)$  と書くことにする。

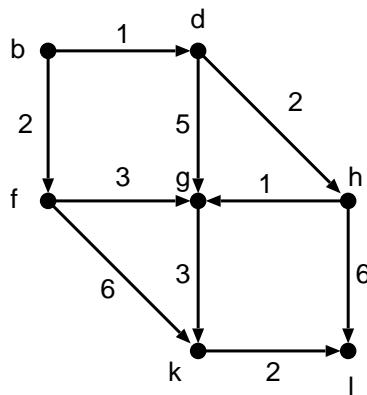
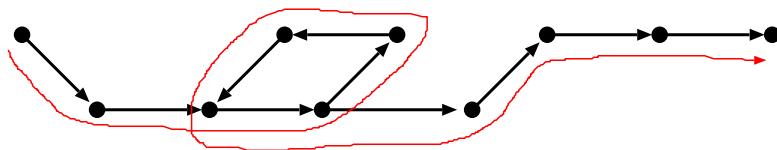


図 2.1:  $G$  と  $l$



$G$  の中の有向道

$$P = (v_0, a_1, v_1, a_2, v_2, a_3, \dots, a_k, v_k)$$

に対して、 $\sum_{i=1}^k l(a_i)$  を  $P$  の長さと呼ぶ。最短路問題(shortest path problem)とは、与えられた 2 点  $u, v \in V$  に対して、 $u$  から  $v$  への長さが最小の有向道を見出す問題である。

点集合上で定義される関数  $p: V \rightarrow \mathbb{R}$  をポテンシャル(potential)と呼ぶ。

補題 2.1: 任意なポテンシャル  $p: V \rightarrow \mathbb{R}$  に対し, 関数  $l_p: A \rightarrow \mathbb{R}$  を

$$l_p(a) = l(a) + p(\partial^+ a) - p(\partial^- a) \quad (2.11)$$

によって定義する.  $\mathcal{N}$  の中の点  $u$  から  $v$  への任意な有向道  $P$  に対して, 関数  $l$  と  $l_p$  に関する  $P$  の長さをそれぞれ  $l(P)$  と  $l_p(P)$  とすると,

$$l_p(P) = l(P) + p(u) - p(v) \quad (2.12)$$

が成り立つ.  $\square$

補題 2.2:  $P$  を点  $u$  から点  $v$  への有向道とする. もし, あるポテンシャル  $p: V \rightarrow \mathbb{R}$  が存在して, (2.1) で定義される  $l_p$  が

(i) グラフ  $G$  の全ての枝  $a \in A$  に対して  $l_p(a) \geq 0$ ,かつ,

(ii)  $P$  上の全ての枝  $a$  に対して,  $l_p(a) = 0$

を満足するならば,  $P$  は点  $u$  から点  $v$  への最短路である.  $\square$

すべての枝の長さが非負, すなわち,  $l(a) \geq 0$  ( $a \in A$ ), であるときに使える解法としてダイクストラ法 が有名である. これは, 与えられた 1 点から残りのすべての点への最短路を求める.

---

#### Algorithm 1 ダイクストラ法 (始点を $v_0$ とする)

---

入力: 単純な有向グラフ  $G = (V, A)$ , 枝長関数  $l: A \rightarrow \mathbb{R}_+$ .

出力:  $v_0$  からその他の各点  $v$  への最短路, 及び, 最短路長.

- 1:  $U \leftarrow \{v_0\}$ ,  $W \leftarrow \emptyset$ ,  $p(v_0) \leftarrow 0$ ,  $p(u) \leftarrow +\infty$  ( $u \in V \setminus \{v_0\}$ ).
- 2:  $U = \emptyset$  ならば停止.

そうでなければ,  $U$  の点のなかで  $p$  の値が最小であるものを 1 つ選び, それを  $w$  とする. 点  $w$  から出る枝  $a = (w, x)$  で  $x \notin W$  であるような各枝に対して, 以下の (\*) を実行する.

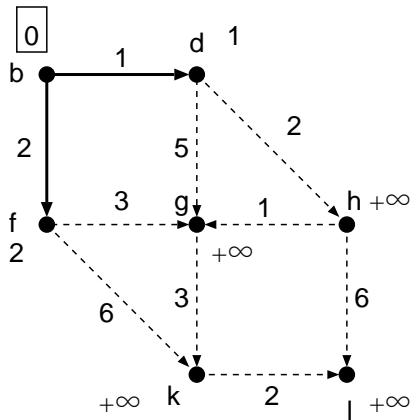
(\*)  $p(x) > p(w) + l(w, x)$  ならば

$q(x) \leftarrow a$ ,  $p(x) \leftarrow p(w) + l(w, x)$ ,

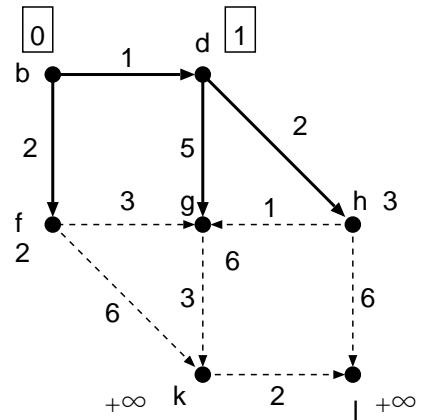
$U \leftarrow U \cup \{x\}$ .

- 3:  $W \leftarrow W \cup \{w\}$ ,  $U \leftarrow U \setminus \{w\}$  として Step 2 に行く.
- 

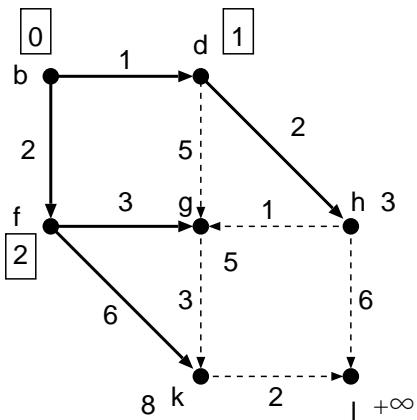
図 2.1 で示されるグラフ  $G$  と枝長関数  $l$  を例題として, アルゴリズムの動作を見てみよう. ここで,  $v_0 = b$  とする.



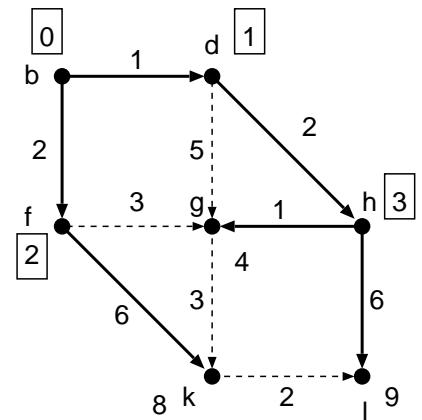
第1回目のStep 3終了時



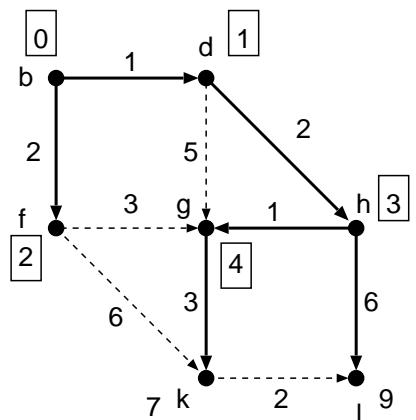
第2回目のStep 3終了時



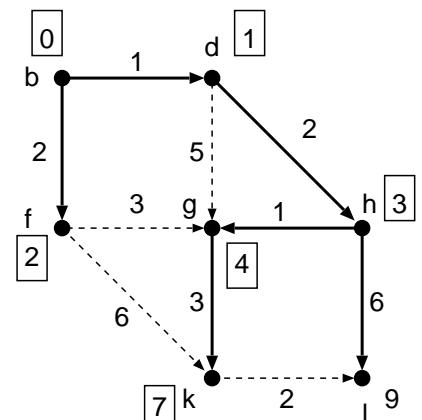
第3回目のStep 3終了時



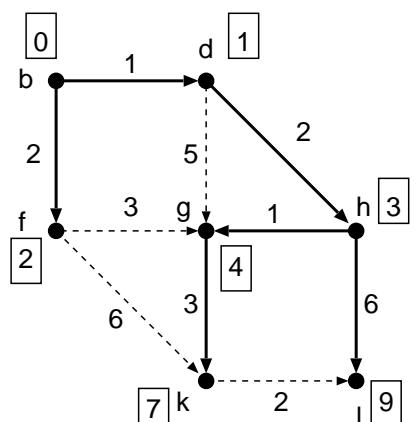
第4回目のStep 3終了時



第5回目のStep 3終了時



第6回目のStep 3終了時



第7回目のStep 3終了時